

各地の話 松島町

町花「石斛」復活へ向けて

2025年6月20日号掲載



セッコクは東北地方南部以南の山地や岩場に見られる小型の和蘭の一種で、松島町は野生のセッコクが自生する地域としてはほぼ北限に位置している。セッコクは、節のある細い棒のようなバルブを何本も束ね、細い根でしっかりと木や岩に着生する。晩春から初夏に白や淡い桃色の花を咲かせ、竹に似た葉の形から、松島周辺では古来「イワタケ」の愛称で親しまれている。

以前は松島湾の島々に咲いていたセッコクだが、乱獲等により絶滅の危機に陥った。種を保存する目的で、平成4年にバイオテクノロジー施設を設け、栽培と販売を行っていたが、施設火災や雑菌の繁殖によりほとんどのセッコクが消滅してしまった。

セッコクの復活をめざし、企業有志の社員募金により、廃校となった学校施設を利用した新しい培養施設が完成した。令和6年度より松島に再びセッコクが咲き誇る時が来る事を目指して、宮城県の指導を受けながら培養を再開し栽培に取り組んでいる。

【記事提供】松島町農業委員会

屋内栽培中のセッコク



町役場内に置かれたセッコク

